

おらほの会社



国際航業株式会社
KOKUSAI KOGYO CO., LTD.



野田 牧人

1. はじめに

弊社が東北に拠点を置いたのは昭和38年に盛岡に東北出張所を置いたのが始まりでした。地質部門が本格的に東北に進出したのは、この8年後の昭和46年に東北国際地質（株）を設立した頃の様です。それから53年東北で皆様方と御一緒に地質調査業を商わせて頂いております。

私が入社したのはその25年後で、流石に私が代表して御礼をのべるのもおこがましい所では御座いますが、弊社が東北で事業を継続出来ておりますのもひとえに（一社）東北地質調査業協会様と東北の発展のため、時にライバルとして切磋琢磨し、時に手をたずさえてともに歩んできて頂いた同業他社の皆様のおかげです。先ずはこの場をお借りして御礼申し上げます。

2. 会社の沿革と業務の概要

弊社の設立の歴史は、1928（昭和3）年に設立した日本航空輸送株式会社まで遡ることになります。終戦を経て、事業が分割され、その一部を継承して前身となる会社が設立され、1949年によりやく現在の名称である国際航業株式会社に商号を変更しました。



左：解析図化機プラニコンプC-100
右：1970年北九州市小倉駅構内での平板測量

地質系としては、1968年に弾性波探査器を導入、その3年後の東北進出となります。

弊社全体としては1980年頃からはオルソフォト（正射投影画像）を用いた地形解析をはじめ、さまざまな解析業務を手がけ、防災や環境保全などの分野で多くの成果を上げました。またGIS（地理情報システム）に注力、1990年頃から行政業務総合支援システムや法人向けマーケティングGIS等の地理情報システムを開発し、世に送りだしました。

この頃以降にはデータ取得の手法もニーズの変化に従って多様化が進み、MMS（移動式計測車両）の導入、GPS/GNSS、人工衛星、UAV、ナローマルチビーム測深機、デジタル航空カメラ（DMC）などの最新機材を積極的に取り入れました。



左：ビーチクラフト式B50型（JA-5013号機）（航空機）
右：ステレオプラニグラフCB



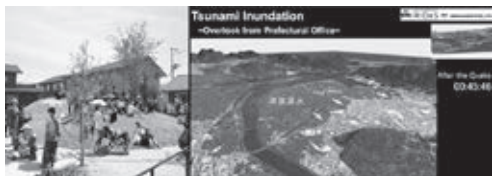
左：ロードマン（路面性状計測量）
右：DMC-C208（デジタル航空カメラ）

特にレーザスキャナによる数値標高モデル (DEM : Digital Elevation Model) はコンピュータとの親和性が高く、一層高度な解析結果を取得できるようになりその後地理空間情報技術を軸とし、防災・減災、行政マネジメント、インフラマネジメント、脱炭素・環境の分野での技術コンサルティング事業を展開する現在の様な業態に変位してきております。

これら解析技術の高度化、GIS開発、データのデジタル化によって、当社は「はかる」業務から、データの取得・解析、解析結果の利活用などの業務へと業容を拡大していくことになりました。

2010年 「グリーン電力証書発行业者」登録

2011年 地域での太陽光発電事業と再生可能エネルギーに関するコンサルティング事業の本格展開開始、東日本大震災の復興支援本部を新設、被災地の復興支援事業を本格的に開始。



2013年 国連グローバル・コンパクト (UNGC) に署名

2017年 明治コンサルタント株式会社を子会社化

2023年 株式会社ミライト・ワングループの一員へ

2024年 経済産業省が定める「DX認定事業者」認定

3. 東北事業所

1) 防災

近年の大きなトピックとしてはこれを外す事は出来ないでしょう。東日本大震災を振り返り、日々装備・準備を整えています。

2008年に新築の現在のビルに東北の拠点を移動した弊社は当時ビルの8階に入っていたこともあり、10席もつながったオフィスデスクが踊り回り、1cmもの径の電源ケーブルを複数引きちぎっていたそうです (私は一閃の素掘りのトンネルの中で転がるように出口を目指しておりましたのでオフィスの様子は知りませんでした)。



震災数日後のオフィスの様子

その後同じビル内の未だ空きの有った3階に移転しました。

震災直後より前出の復興支援本部を新設、被災地の復興支援事業を本格的に開始し、再生可能エネルギーに関するコンサルティング事業の本格展開を開始して今日に至ります。

①避難体制・対策装備の充実



ビル総合防災訓練への参加



仙台市消防局若林消防署による救命講習の様子



左：備蓄状況（一部） 右上：各自の机に折畳ヘルメット
右下：備蓄用水（一部）・持出キット（各自机に格納）例

2) 福利厚生

令和5年にコロナが5類に移行しましたが、さあそれではといきなりフルスロットルで日常に戻る訳も無く、社内行事もようやく復活して来ました。一部を紹介します。

- ①労働組合主催：外部事業者によるライフサポートセミナー



- ②東北事業所ビアパーティin 仙台ビール園



- ③東北技術部 「芋煮会」



4. おわりに

弊社は“はかる”技術をコアとして、持続可能で強靱な国土の構築と質の高いインフラ整備の一翼を担うべく精進してまいります。

今後ともより一層の御愛顧賜りますようお願い申し上げます。